

第2回 図書館建設検討委員会 議事概要

1. 開催日時

令和2年8月31日（月） 午後1時27分から午前2時40分まで

2. 場所

大和ふれあいセンター シトラス

3. 出席者

【委員】

塚原 正彦、谷田部 由則、濱野和 博、友常 梢、田口 瑞男、柴山 兼光、仁平 昌則、
栗林 浩

【桜川市教育委員会】

教育長：稲川 善成

事務局：久見木 憲一、荻原 由紀恵、中島 崇教、海老沢 なるみ、矢島 賢人（生涯学習課）

4. 会議の内容

- (1) 今後の委員会の流れについて
- (2) 基本構想 「現状と課題」「コンセプト」について
- (3) 基本構想 「立地」「運営形態」について
- (4) まとめ
- (5) 次回開催について
- (6) 事務局提案

5. 協議事項

- (1) 今後の委員会の流れについて

○事務局より、基本構想を当初予定の第2回委員会で決定ではなく、意見を基本構想に反映させて第3回委員会で決定することを提案。

- (2) 基本構想 「現状と課題」「コンセプト」について

○事務局より説明

【質疑】

・近隣市町村及び県内の図書館で蔵書が5万冊前後の図書館はあるのか。

⇒（事務局）蔵書が5万冊を切るところはほぼ見受けられない。近隣でいえば規模の小さい笠間市の岩間図書館でも8万冊の蔵書がある。

【意見】

- ・学習スペースで受験等の勉強を行う学習塾のような活用方法は本来好ましくない。図書館の蔵書の活用を主とした智の発展場所としての整備が必要。
 - ・他の図書館では、学習スペースに高齢者等が集まってしまい、本当に使いたい人が使えないといった例もある。使用料の徴収や警備員の配置などで対策しているところもある。
 - ・市民へ呼びかけして貴重な蔵書を寄贈してもらうことも検討してほしい。
 - ・桜川市は文化財が豊富であるため、関係する資料等を収集して開架することによる学びの拠点づくりとしての整備を図る。
 - ・多目的スペースの整備に力を入れすぎると図書館本来の目的が薄れてしまうのではないか。
 - ・書架については他市町村の図書館を実際に見学してよく検討したほうが良い。
 - ・ある程度コンセプトを絞らないとただ大きいだけの図書館になってしまうのでは。
 - ・ICTを強化できればコンパクトで機能的な図書館にできるのではないか。
 - ・維持管理コストについてよく検討してもらいたい。
 - ・飲食できるカフェスペースは学生等のニーズがあるためなるべく取り入れてもらいたい。
 - ・カフェスペースを併設する場合、運営形態として民間事業者が介入してくると想定される。市役所に比べ図書館は利用率が高く、民間事業者にとっても採算が取れることが想定されるため図書スペースとカフェスペースの割り振りやそれぞれの運営形態について検討しなければならない。
 - ・新図書館は既存の公民館図書室や学校の図書室との棲み分けはどのように考えているのか。
- ⇒（事務局）桜川市は南北に縦長の地形のため、新図書館と真壁図書館を中心とした蔵書流通必要不可欠であり検討しているところである。
- ・社会人は自家用車で来訪できるが学生たちは公共交通機関等を利用しなければならないため、利用する際の交通網を整備する必要がある。
 - ・世代を問わない図書館を目指すため ICT、交流といった点は押さえておきたい。
 - ・提示された案は、図書館としてあってほしい要望がすべて盛り込まれていて、何をしようとしているかがわかりづらい。
 - ・桜川市として図書館をつくることで何を実現しようとしているのか。利用者のターゲットをどこに設定して、どのような目標を設定するのか目標を実現するための戦略を想定して、実現可能なプランにねりこんでいく必要がある。

(3) 基本構想 「立地」「運営形態」について

○事務局より説明

【意見】

- ・岩瀬公民館を改修して図書館と複合型の建物を建てた場合、どちらの機能も中途半端になってしまうのではないか。

- ・図書館と公民館は別で考えてほしい。
- ・岩瀬庁舎の敷地に建てるのであれば立地もよく面積も広くてよいのではないか。
- ・持続可能な運営及び市民が愛着を持って利用できるよう直営での運営をお願いしたい。
- ・子どもたちのために絵本などを充実させてほしい。
- ・笠間市の図書館では当初図書館長を任期付職員研究職で雇用していたので桜川市でも検討してほしい。
- ・図書館は合併特例債事業で位置付けている。平成 29 年度の最後の見直しでは 8 億 3 千万円を起債しているため、その金額を大きく外れない範囲で実現可能な計画にすることを念頭においてほしい。
- ・図書館建設の交付金や補助金はないが、複合施設であれば受けられる補助金があるため、一般財源をなるべく支出しないよう財源となるものを可能な限り探すこと。
 - ⇒（事務局）事務局としては、一般財源をできる限り支出しない方法を検討し、交付税措置が有利なものや複合化し可能な限り財源につながるものを探したい。

(4) まとめ

- 本日の意見を踏まえ、コンセプトを絞り具体的にどのような図書館を造るのか精査する。
 - また、立地場所が決まるまで基本計画に入れなため、図書館に必要な機能を中心に基本構想を練り直す。
 - 次回委員会では、桜川市に求められる図書館として具体的なイメージを構想として提案させていただく。

(5) 次回開催について

- 次回の開催は欠席者の都合を鑑み 10 月 16 日、23 日、31 日の候補日のいずれかとし、決定後、各委員へ通知を送付する。
 - 場所は大和ふれあいセンターシトラス 2 階のレッスン室にて開催予定。

(6) 事務局提案

- 先日の高校生会にて本委員会への出席希望者がいたため、委員会への出席を委員へ提案。
 - ⇒（委員）市政モニターでも図書館建設に関心のある市民も見受けられたため、ワークショップを開催して広く意見を言える場を設けてはどうか。
 - ⇒（事務局）基本計画の段階でワークショップを開催することも検討する。